

## 岡崎市社会資本整備総合交付金評価委員会議事録

### 1 日時

令和2年1月28日（火） 15:00～

### 2 場所

岡崎市役所 東庁舎5階 601号会議室

### 3 評価委員

#### (1) 出席者

委員長：名城大学理工学部教授 鈴木 温 氏

委員：日本政策投資銀行

業務課長兼企画調査課長 小沢 良平 氏

委員：名古屋市立大学人文社会学部准教授 三浦 哲司 氏

委員：名古屋大学大学院環境学研究科准教授 井料 美帆 氏

#### (2) 欠席者

なし

### 4 事務局

総合政策部企画課副課長 山本 英樹

総合政策部企画課主事 稲石 匠

都市整備部市街地整備課副課長 太田 貴司

都市整備部市街地整備課係長 野崎 貴弘

都市整備部市街地整備課主査 船山 博満

都市整備部市街地整備課技師 村田 綾花

### 5 傍聴人

なし

### 6 委員会次第

#### (1) 開会

委員長選任

#### (2) 議事

ア 社会資本総合整備計画「都市再生整備計画岡崎駅東地区（都市再構築戦略事業）」事後評価

イ 社会資本総合整備計画「道路交通の安全と円滑化及び沿道の環境改善による拠点市街地の形成（街路事業）」事後評価

(3) 閉会

## 7 配布資料

(1) 資料1

次第、評価委員会設置要綱、配席図

(2) 資料2

評価委員会説明資料、参考資料①（アンケート調査結果まとめ）、参考資料②（交流拠点の活用状況）、社会資本総合整備計画（街路事業）、事後評価シート（街路事業）、社会資本総合整備計画（都市再生整備計画事業）、事後評価シート（都市再生整備計画事業）

## 8 会議要旨

(1) 委嘱状の配布

(2) 本委員会は、「岡崎市附属機関等の会議の公開に関する要領」第2条に基づき、公開となることの説明

(3) 委員長の選出、鈴木委員を委員長に選出

(4) 議事（事務局説明、質疑応答）

## 9 議事内容

鈴木委員長	社会資本総合整備計画「都市再生整備計画岡崎駅東地区（都市再構築戦略事業）」の事後評価及び社会資本総合整備計画「道路交通の安全と円滑化及び沿道の環境改善による拠点市街地の形成（街路事業）」の事後評価について、事務局から説明をお願いします。
事務局	（社会資本総合整備計画「都市再生整備計画岡崎駅東地区（都市再構築戦略事業）」及び社会資本総合整備計画「道路交通の安全と円滑化及び沿道の環境改善による拠点市街地の形成（街路事業）」の指標、実績、指標達成状況、評価について説明。）
鈴木委員長	事務局の説明事項でご意見等ありましたら、ご発言をお願いします。
三浦委員	地域活動団体数の目標未達成については、公園愛護会の設立ができなかったことが挙げられると思うが、担い手不足というこ

	とは町内会の実情も把握する必要があると思う。また、地域活動団体数6団体という目標値について、現実的に達成が可能な見通しは立っているのか。立っていない場合は公園愛護会以外の方策等あるのか。
事務局	2号公園と6号公園に愛護会など地域活動団体がおらず町内会にお願いをしているが、担い手がいない状況である。公園愛護会の設立は難しいかもしれないが、イベントの活用等で地域交流の場として活用を期待している。
三浦委員	愛護会はどのような活動を行っているのか。
事務局	公園内の草刈りやトイレ清掃等をやってもらっている。
三浦委員	今後、人口減少等により既存の4団体の維持もできなくなるかもしれない。愛護会のない公園に愛護会を設立することのみならず、今ある団体をどのようにして維持していくかという視点も重要ではないかと思う。
事務局	参考にさせていただく。
井料委員	アンケート調査結果「地域住民のつながり」について、5年前と比較すると、満足度はほとんど変わっていない状況にある。地域コミュニティへの関わり方は、世帯ごとに、また、年齢や職業によっても、変わってくる。 地域コミュニティの状況と回答者の属性の相関等について分析は行っているのか。
事務局	現時点では年齢や職業別での分析は行っていない。
井料委員	地域コミュニティ強化にあたっては、人の属性を考慮しながらどのような方法でどのようなコミュニティ形成をしていくかを考えるべきではないかと思う。
事務局	本地区は区画整理による基盤整備を行っていることから、近年新しく地域にやってきた人も見られる。古くからの住民の地域コミュニティができて一方、新たに転入してきた住民のコミュニティ形成にはもう少し時間を要するのではないかと思う。コミュニティが熟成してきた時に、愛護会のような地域活動にもつながるのではないかと期待している。
小沢委員	街路事業の満足度調査について、どのような点に対して満足か、不満足か、を把握できると今後のまちづくりにも生かされるのではないかと思う。

事務局	鉄道の東西を結ぶ道路が整備されていない状況でアンケート調査を実施した。立体交差の道路ができることによって、交通の利便性が高まり、さらに満足度が上がってくるのではないかと期待している。
三浦委員	東口の駐輪場が有料化、西口の駐輪場が無料という状況であるため、西口利用者が増加するのは当然の流れと思う。柱町線のアンダーパス整備後は、アンダーパスを通行して駐輪場に向かう自転車が增多することが想像されるが、自転車道も整備されるのだろうか（整備されない場合、歩道を自転車と歩行者が、あるいは自転車同士が、頻繁に行き交う状況になってしまうのか）。
事務局	基本的には、自転車を降りて通行することを想定している。西口の駐輪場については、来年度・再来年度以降になるが、有料化を検討している。土地の高度利用の意向もあり、民間活力を活かして下層に駐輪場、上層に別の機能・施設を誘致するよう考えている。東西ともに駐輪場が有料となれば、東西の自転車の往来も減るかと思われる。
井料委員	駐輪場有料化の影響から、自由通路の通行者数が増えなかったのは仕方ない。また、歩行者自身の移動経路の変更等、本調査のみでは実態を全て把握しきれないかもしれない。今後の方策を考える際、様々な交通手段（自動車による送迎、自転車、歩行者等）で駅にアクセスする人々をどのようにさばくのか等、整備の方向性についてきちんと計画立てる必要があるのではないか。
事務局	参考にさせていただく。
鈴木委員	駅自体の利用者数や人口が増えていることから、数値以上に整備効果は出ているのではないかと思う。調査方法の改善も含めて、今後の課題としたい。
事務局	歩行者について、ペDESTリアンデッキ整備前は、横断歩道の通行者が多く車の渋滞の原因となっていたが、現在は流れが変わってきている（ペDESTリアンデッキの利用により横断歩道の通行者数が減少している）。自転車についても状況が改善しており、有料駐輪場が以前よりも南側に整備されたことで、駅前広場内の自転車通行が減少している。

	自動車は依然として夕方の混雑があるものの、既存のロータリーのほかに第2乗降場の利用を誘導することで、駅前の渋滞解消に努めている。それぞれの状況を把握しつつ、今後はより良い計画を立てたい。
井料委員	歩行者、自転車、自動車を上手く分散させながら、それぞれにとって使いやすい仕組みになるように動線計画を考えていただけるとよい（すべてに対しての利便性向上を図った結果、交通集中による問題が生じる可能性もある）。
事務局	参考にさせていただく。
鈴木委員長	動線計画の検討・策定にあたっては、現状の人の流れを把握するのが大事だと思う。調査実施の予定等はあるか。
事務局	現時点では特に無い。ペDESTリアンデッキが供用後間もないので、もう少し様子を見た後に考えたい。
鈴木委員長	東岡崎駅に比べて岡崎駅はさみしい印象がある。まちづくりの観点からすると、本地区は駅を中心とする核のエリアとなっていくことが重要だと思う。そのためには、ある程度の商業集積や駅徒歩圏内の住宅の整備等も、長期的な視点において重要になってくる。時間をかけてにぎわいを形成することで、ペDESTリアンデッキもより活用されるのではないかと思う。周辺の整備も含めて、今後もご検討いただきたい。
事務局	今後も検討していく。

## 10 結果

この事後評価案が妥当であることを判断する旨、委員一致で採決された。今後は、本評価について国に報告するとともに、岡崎市のホームページで公表を行う旨を説明し閉会した。